「JOTA-JOTI」活動内容のご紹介

スカウトや指導者がアマチュア無線やインターネットを通じて、国内各地や外国のスカウト仲間と交信し、お互いを理解し、知識と友情を深めることを目的とする、世界最大級のデジタルスカウトイベントです。２０２０年度の活動報告から、事前準備、当日のプログラム展開、国内外での交信についてご紹介します。隊や団の活動計画の参考にお使いください。

プログラム事前準備

＜事例紹介＞ JOTI – 千葉県連盟（参加回数：2 回～4 回／複数団が参加）–

県連盟として主催会場を用意せず、複数団がそれぞれの会場から共通のインターネット会議システムに接続する形式をとって、国内での交流を実施した。ローバースカウトの経験者が、インターネットと無線双方の取り組みや、進歩の面でチャレンジ章へのつながりを紹介してくれた。
様々な年代と話すためのネタを用意すればよかった。RS,VS 年代に相当するスカウトとの会話の準備はできていたが、CS 年代が話せる話題を準備すればよかった。
久しぶりの参加であったが、前回よりも利用できるツールが多く、隊での WEB の環境も整ってきた。次回は自隊で参加するプログラムの内容をさらに充実させていきたいと感じた。

＜事例紹介＞ JOTI – 兵庫連盟 西宮第 3 団（参加回数：5 回以上）–
地区内で金曜の夜にプレ JOTI を開き、初めて団で開催する担当者を集めて練習できた。予め登録をしていても、時差の関係でつながりにくいという問題もあり、どのようにつなげばいいかを実際に実演しながら説明することができた。
地区では毎月英会話練習会を実施しており、国際交流に積極的な団も増えてきた。10 月に入ってスカイプをちょくちょく立ち上げていたら、新しい JOTI グループの情報を仕入れることができた。参加国が偏っているという問題はありますが、繋がらない心配がなくなった。
英会話を習っているスカウトは積極的に参加していましたが、話す中身がないという課題があった。団や隊で事前に国際交流の取り組みがあれば、違うと感じる。

当日のプログラム展開例

＜事例紹介＞ JOTA – 兵庫県連盟 赤穂第 1 団（参加回数：2 回～4 回）-

アマチュア無線を活用した交信の他、プログラムの導入として自作ラジオにも挑戦し、興味関心を引くことに注力した。
屋外での移動運用で雨に苦慮した。ほとんどのスカウトが従事者免許を保有していないため、通常のラジオ受信も取り入れたことが電波に興味を向ける素材になったと思う。
参加スカウトはゲルマニウムラジオの製作を行い、完成後は実際に受信することができた。一部のスカウトは真剣に放送を聞いていたのが印象に残った。

国内外での交信・交流

＜事例紹介＞ JOTI – 大阪連盟 高槻第 12 団（参加回数：初めて）–

最初は緊張して恐る恐る話しかけたのですが、相手からの反応があり、簡単な言葉が理解できてとても喜んでいた。自分の英語が少し通じることに自信をつけたようです。外国人観光客へのインタビュープログラムの障壁が低くなったように感じる。スカウトが質問内容をあらかじめ考え、画用紙に大きく英語で書いておいたので落ち着いて話すことができた。色々の折り紙を折って画用紙に張り付けて紹介した。ビーバーも楽しく参加していました。剣玉も喜んでもらえた。

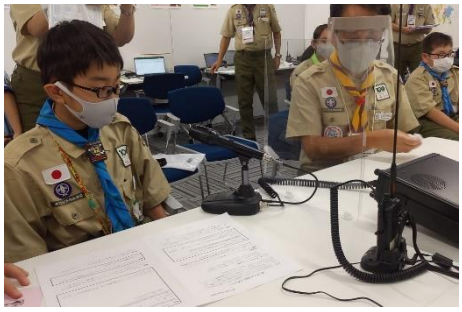
2 時間の交信で 2 か国 2 グループとの交流しかできなかったが、カブ年代には適当な時間だったと思う。交信予約を 3 グループとしていたが時間がずれて、うまくつながらないことがあった。短時間の開催でも多くの予約が必要だと感じた。時間調整用に別ルート（複数）の手段を準備しておく必要があると感じました。

＜事例紹介＞ JOTA – 栃木県連盟 宇都宮第 12 団（参加回数：5 回以上）–

良かった点：体験記念局、体験局の様に、全てのスカウトが JOTA 参加の機会を得られたことは貴重だと考えます。初めての交信のための準備もよく出来ているように感じました。 会話が進められるよう、フォネティックコード、和文、自己紹介、話す内容などを事前に用意してあった。

いまいちだった点：体験局との交信の際、もっとスカウトたちに安心して交信できるよう（緊張をほぐせるよう）、話し方や話題を準備しておけばよかった。もう一度機会があれば、スカウト活動について尋ねてみたり、好きな食べ物やアニメなどの答えやすい質問を出してみる等、工夫しようと考えている。

＜事例紹介＞ JOTA - 東京連盟 練馬第 3 団（参加回数：初めて）-



日本連盟が開局した、記念局兼体験局に参加し、免許がないスカウトでも機器に触れ、無線での交信に挑戦した。2 日間で 12 個団 65 人がプログラムに取り組んだ。

体験局に参加したスカウトたちは、南極昭和基地の隊員の方と交信させていただくことができ、今後のスカウト活動にも大きな影響を与える刺激になった様子。引率した指導者も含めて、皆ジワジワと感動が後から大きく湧いてきている。

国内のスカウトたちとの交流も、JOTA-JOTI をきっかけに活発に行うことができるのではないかと思う。交流のハブとなる拠点を公式サイトのようなマップで可視化できると、多くの国内スカウトとも繋がることができるのではないかと感じた。

（2020.11.05）